

## 『虞美人草』 文明人へピンスポット

Junko Higasa 2013.11.15

第11章で、文明の民はことごとく光り輝く人工イルミネーションに集まる。同様に文明人である小野さんは、藤尾の光り輝く計略ダイヤモンドに引き寄せられる。小野さんは藤尾という財産家の甘い蜜に吸い寄せられる蟻であり、彼女に尻尾を振る<sup>いぬ</sup>狗であり、その宝石の光りをめがけて飛ぶ蛾である。それは「高度な戦闘能力を認められて、権力拡大を目論む貴族に雇われ、彼らに命を捧げる忠誠を誓う中世ヨーロッパの騎士」のようだ。それをそのまま日本社会に転じれば、小野さんは権力拡大を目論む国家に知恵で貢献する博士を目指す人である。それは高収入の甘い汁を吸う蟻であり、国の方針に従う狗であり、金の光りに集まって飛ぶ蛾である。国家に認められた能力で、国家権力拡大に寄与し、忠誠を誓い、国に命を捧げる騎士である。しかしここで小野さんは気を付けなければならない。蛾は蝶と同じような姿をしているが、華やかな蝶と同等にはなれない。すなわち権力維持に貢献はするが、権力自体の主人にはなれないのである。そして権力という光りに集まってぶつかれば、体毛の一部である鱗粉がはがれる。それは自分の身を削るということだ。もし小野さんが毒蛾であれば、周りの者に毒を与えることになる。言い換えれば周りの者に生死の影響を与える。すなわち小野さんの目指す地位は、文明の民に対する未来への影響を背負っているのである。